

日本看護歴史学会 會報

日本看護
歴史学会
第64号
2015年7月15日

川嶋みどり理事長が「山上の光賞」を受賞されました

日本看護歴史学会副理事長 岡山寧子



川嶋みどり理事長

このたび、川嶋みどり理事長が「山上の光賞」を受賞されました。日本看護歴史学会を代表しまして、心よりお祝い申し上げますとともに、会員の皆様にご報告したいと思います。この賞は、日本の広範な健康・医療分野において素晴らしい活躍をされ、高齢を迎えてもなお、その知性、経験、そして知識を駆使しながら、後に続く世代の歩むべき道を照らす「山上の光」として活躍し続けておられる方々を顕彰するために創設されたということです。そして、さらに多くの日本のシニアを勇気づけ、活発な社会の一員として活動し続けることの素晴らしさを伝えることをめざしているということです。川嶋理事長は、その栄えある第1回目の受賞者のお一人となりました。

今回、「医師」「看護・保健」「研究者」「NPO・ボランティア」「公衆衛生」の各部門から7名が受賞、川嶋理事長は、多くの候補者の中から「看護・保健」部門で受賞されました。選考に先立ち、日本看護歴史学会、日本看護科学学会、日本赤十字看護学会の3学会から、書面にて川嶋理事長を候補者とし

て推薦させていただいた経過があります。ですから、理事長のご授賞は、より一層の喜びであることを実感しています。

5月12日に授賞式が開催され、推薦者として出席させていただきました。来賓には、厚生労働大臣や文部科学大臣などの閣僚や著名な方々、宇宙飛行士の向井千秋氏をはじめ審査員の方々、スペシャルゲストの日野原重明氏など、1000人を超える人々が集い、目を見張るような盛大な授賞式でした。その中で、一番印象深かったのは、やはり川嶋理事長のスピーチでした。理事長が歩まれた看護の道、仕事を持つ女性としての人生、そして今取り組まれている活動についても熱く語られ、拍手大喝采、まさに「山上の光」がぱっと輝いた感動的な瞬間でした。

川嶋理事長におかれましては、ますますお元気で、本学会はじめ看護界に、時には檄を飛ばしていただき、進むべき方向に光を当てていただければと思います。最後になりましたが、本当におめでとうございました。



授章式の様子 川嶋理事長の右に岡山副理事長

日本看護歴史学会第29回学術集会が開催されます

札幌医科大学 城丸瑞恵



城丸瑞恵先生

日本看護歴史学会第29回学術集会は、2015年8月22日（土）23日（日）に札幌で開催させていただくことになりました。北海道ではじめて日本看護歴史学会を開催させていただくということで、担当者一同張り切って準備を進めている次第です。さて、第29回学術集会のテーマは「歴史学の可能性と未来—空間と時間を越えて」です。過去から現在、現在から未来に向けて歴史を学ぶことの面白さ・意義について皆様と意見交換をして深めることができたら幸いです。

プログラムは、大きくシンポジウム、教育講演、特別講演、理事会セッション、研究発表に分かれています。シンポジウムは「繋ごう！看護の歴史を現在から未来へ」をテーマに、看護学生、2年目の看護師、中堅看護師、そして川嶋みどり先生をシンポジストに開催し、後進に伝えたい看護の心、技術、そして先輩から受け継いだものについて語っていただき、参加者の方々と共有したいと考えています。教育講演は2つ計画しております。1つは、札幌市立大学の羽深久夫先生に、「世界遺産の歴史学的意義—建築学史の視点から」をテーマに講演をいただきます。特に看護に関連し、ホスピタル機能を有する建築物の歴史について、西洋と日本の建築の比較を通してお話いただきます。もう一つは、テーマ「語り継ぐ北海道の医療

の歴史と未来：開拓地における女性の役割～インマヌエル村の荻野吟子の足跡をたどりながら」のもと、日本医療大学の林美枝子先生に、荻野吟子に焦点を当てたお話をいただきます。特別講演も2つ企画しています。Iでは「北海道アイヌに伝わる健康の知恵」をテーマに、アイヌ語講師の関根健司さんにご講演いただきます。IIでは、「命をつなぐ動物園—明治期からの取り組みと現在、そして未来へ向けた発展へ」と題し、札幌円山動物園飼育員の朝倉卓也さんに、動物園の歴史の変遷をたどりながら、環境教育の必要性などについてお話いただく予定です。特別講演は広く一般市民にも公開します。そのほか、理事会セッションでは、「戦争と看護」、「看護師の特定行為」「看護史の研究方法」をそれぞれテーマに据え、参加者と共に考えていきます。

懇親会では、よさこいソーランの演舞を予定しており、学会の企画同様におすすめいたします。また、8月の札幌は魅力が満載ですので学術集会の合間に札幌の街をお楽しみいただけたらと思います。

看護の歴史について多様な世代で考える、また、北海道の特性や地域性を最大限に組み込んだプログラムにしていますので、多くの方々に参加していただきたいと考えています。多数の皆様のご参加を心よりお待ちしております。



第29回学術集会プログラム

日時：2015年8月22日(土)・23日(日) 会場：札幌医科大学臨床教育研究棟
 テーマ：「歴史学の可能性と未来—空間と時間を越えて」

日 時	プ ロ グ ラ ム	会 場
8月22日(土)	9:30~10:20 【会長講演】「看護史教育の課題と未来の看護創造への可能性」 城丸瑞恵(札幌医科大学) 座長：日下修一(聖徳大学)	第1会場
	10:30~11:40 【シンポジウム】「繋ごう！看護の歴史を現在から未来へ」 シンポジスト：川嶋みどり(日本赤十字看護大学)、作田麻由美(北海道社会事業協会 余市病院)、小山舞香(札幌医科大学附属病院)、山口莉穂(札幌医科大学看護学生) 座長：丸山知子(北海道看護専門学校、前天使大学)	第1会場
	11:50~12:50 総会(昼食時間)	第1会場
	13:00~14:00 【教育講演Ⅰ】「世界遺産の歴史学的意義—建築学史の視点から—」 羽深久夫(札幌市立大学) 座長：田中幸子(東京慈恵会医科大学)	第1会場
	14:10~15:10 【教育講演Ⅱ】「語り継ぐ北海道の医療の歴史と未来；開拓地における女性の役割—インマヌエル村の萩野吟子の足跡を辿りながら—」 林美枝子(日本医療大学) 座長：萩原直美(札幌医科大学附属病院)	第1会場
	15:20~16:20 【理事会セッションⅠ】「戦争と看護—今、看護と戦争を考えること—」 企画責任者：田中幸子(東京慈恵会医科大学)	第1会場
	14:10~16:35 研究発表【口演・示説】	口演会場 示説会場
17:00~18:30 【懇親会】	札幌医大 食堂	
8月23日(日)	9:30~10:30 【特別講演Ⅰ】(市民公開)「北海道アイヌに伝わる健康の知恵」 関根健司(平取町立アイヌ文化博物館学芸員補 アイヌ語講師) 座長：鈴木真理子(美唄聖華高等学校)	第1会場
	10:40~11:40 【特別講演Ⅱ】(市民公開)「命をつなぐ動物園—明治期からの取り組みと現在、そして未来へ向けた発展へ—」 朝倉卓也(札幌円山動物園飼育員) 座長：杉田久子(北海道医療大学)	第1会場
	9:30~10:30 【理事会セッションⅡ】「看護師の特定行為に関する法制化と研修制度の歴史的省察」 企画責任者：藤村龍子(東京慈恵会医科大学)	第2会場
	10:40~11:40 【理事会セッションⅢ】「今、改めて看護歴史の研究方法を学ぶ」 企画責任者：滝内隆子(金沢医科大学)、黒田裕子(徳島文理大学)	第2会場
	9:30~11:40 研究発表【口演・示説】	口演会場 示説会場

学術集会参加・懇親会申込み

事前参加申込みをされた方には抄録集を8月にお届けする予定です。事前受付は2015年7月3日(金)までで、7月4日(土)以降は、当日参加となり、参加費は当日会場でのお支払いとなります。学生参加は当日のみの受付となります。学生証の提示をお願いします。また懇親会は8月22日(土)に札幌医大食堂eダイニングで予定しております。

参加は事前にお申し込みください。参加費は事前にお振り込みいただいても、当日払いでも結構です。ぜひご参加よろしくお願いたします。

なお、詳細は、日本看護歴史学会 第29回学術集会 ホームページに掲載しております。
<http://web.sapmed.ac.jp/kangorekishi/konshinkai/index.html>

	会 員	非 会 員	学 生 (※)	懇親会 (8月22日)
当日受付	8,000円	9,000円	500円	4,000円(会員・非会員)

※看護師の有資格者は除く

連載 授業で歴史を教えよう (1) 歴史に向き合うことの意義

東京慈恵会医科大学医学部看護学科 田中幸子

私は、基礎教育で保健婦助産婦看護婦法や看護婦等の人材確保法の成り立ち、占領期の看護改革を教授しています。当時の国内外の政治環境を踏まえるため、時にそれらは大学院や継続教育の中で「看護政策」の位置づけになります。法律は学生にとっては理解しにくいかもしれないが、なぜできたのか、そのときにどのような人がどのような思いで活動していたのか、などがわかるように工夫しています。本学会が始まって間もない頃、占領期の身近な出来事を昨日の事のように「あの頃は〇〇だったのよ」と語る会員が多くおられました。そうした貴重な“生”

の話も大切です。また、看護と法：森永ヒ素ミルク事件の授業は、歴史だけでなく同時に法学や環境科学など様々な視点から学ぶことができます。史料(資料を含む)から事件のプロセスを説明し、当時活躍した養護教諭や保健婦の方々の思い、被害者とその家族の生活過程を想像すること、そこから看護とは何かを学生に考えさせています。故ワイツゼッカー氏(旧西ドイツ大統領)は「過去に目を閉ざす者は現在にも盲目」と歴史に向き合うことの重要性を指摘しています。看護歴史は看護の過去・現在・未来をつなげる上で不可欠なものだと思います。



新入会員紹介(敬称略)

* () 内は会員番号 平成27年1月～平成27年5月入会

江原美智子 (14032)	佐々木由紀子 (15001)
吉川 恵理 (15002)	井村 俊義 (15003)
杉田 久子 (15004)	大橋 幸恵 (15005)
松浦智恵美 (15006)	田嶋 紀子 (15007)
遠藤 明美 (15008)	岡田 京子 (15009)
門林 道子 (15010)	吉田 香 (15011)
畑瀬智恵美 (15012)	合田恵理香 (15013)
加治 美幸 (15014)	岩田 直美 (15015)
児玉 裕美 (15016)	萩原 智子 (15017)
鷹居樹八子 (15018)	辻 慶子 (15019)
松本 真希 (15020)	萩原 直美 (15021)
廣橋 容子 (15022)	



お知らせ

■事務局から

平成27年度会員動向(平成27年5月末現在)

1. 会員数	357名
2. 入会者数	22名
3. 退会者数	2名

会費納入のお願い

平成27年度会費(6,000円)をまだ納入されていない会員の方はすみやかに納入をお願いいたします。事務局からお送りした払込取扱票を紛失された場合は、郵便局にある払込取扱票に口座番号「01010-1-52185」、加入者名「日本看護歴史学会」にて、通信欄に「会員番号」、ご依頼人の欄に「郵便番号・住所・氏名・電話番号」をご記入いただき、窓口かATMで払い込み下さい。3年間会費滞納の場合、退会となり会員資格を失いますのでご注意ください。

所属・住所変更や退会の場合

所定の変更届や退会届(本会ホームページからダウンロードできます)を事務局宛にご提出下さい。

学会誌投稿論文の送り先

投稿論文の送り先は事務局ではありません。送り先は、〒182-8570 東京都調布市国領町8-3-1 東京慈恵会医科大学医学部看護学科 田中幸子(日本看護歴史学会誌編集委員会)宛です。お間違えのないようお願いいたします。

編集後記

連載始めました。看護歴史の必修化に向けて会員の皆様からいろいろな取り組みのご紹介、お待ちしております。(ゆ)

日本看護歴史学会会報 第64号

企画・編集 川原由佳里(日本赤十字看護大学)
三上 れつ(中部大学)

発行責任者 鷹野 朋美(事務局会報担当)

印刷 有限会社 新和印刷

事務局 〒150-0012
東京都渋谷区広尾4-1-3
日本赤十字看護大学
鷹野 朋美
TEL 03-3409-0190
FAX 03-3409-0589(代表)
e-mail t-takano@redcross.ac.jp

学会HP <http://plaza.umin.ac.jp/~jahsn/>